

平成二十五年度「花のまわりみち」

川柳入選句

三浦 宏選

天地人・秀逸

「天位」

糸括初いとくわくはつに選ばれ咲き誇る

川平 厚

(評)

第23回目の「まわりみち」で選ばれた4本の糸括の誇らしげな登場がしばらく目から離れることはあるまい。満足げに帰られた一週間の見学客の笑顔も忘れられない。

「地位」

数あれどアップに映える大手毬おおてまり

伊藤 朝子

(評)

枝の先の方に多くの花が密集して、まるで大きな手まりのようだと命名されたのだとか。「まわりみち」56品種219本の中でわずかに一本のみ。印象の度合も抜群。

「人位」

糸括オーラを放つまわり道

飛田 陽子

(評)

何度戻ってみても、並ではない一種独特な雰囲気の花。中七で、今年の花に選ばれた糸括から発散されるオーラを感じ取られた作者に拍手を贈りたい。

「秀逸」(五句)

散る花の命も見せるまわりみち

吉川 美佐子

(評)

さくらの美しき、珍しさにばかり目を向けず、この句のように、はかなさや、寂しさにも気がついてほしい。

カメラより目に焼きつけた紅手毬

三谷 淑子

(評)

ケータイやカメラもいいが、中七のようにしっかりと自分の目で印象づけて、脳裏に取り込んでほしい。

歴史あり五十六種の八重桜

正木 巧

(評)

配布されたパンフレットの八重桜には、育った土地、改良を加えられた様子等が簡潔に記されていますね。

関山のペットみたいに愛くるし

久保 幸子

(評)

「花のまわりみち」では最多を誇る39本。ペットのようだと感じられたやさしさがうれしい。

肩組んで花の寄り合う糸括

松井 哲夫

(評)

好きな同士はハモる時もすぐ肩を組むようだ。作者は寄り合った糸括にも、すぐにそれを見て取った。

佳作

(十八句)

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 花仰ぐカメラが続くまわりみち | 吉川 美佐子 |
| まわりみち名残惜しくて二回り | 西 畠 悟 |
| まわりみち花の盛りに気圧される | 赤坂道子(道女) |
| まわりみちゆめの袋につめてくる | 萩原秀行(天然水) |
| 鬱金さん君に見とれてしかられて | 三宅総一郎(創総) |
| 桜吹雪浴びて日頃の憂さも散る | 松 岡 登代子 |
| 花に負けピンクのコートついに脱ぐ | 中 島 俊 子 |
| 桜へと腕を伸ばすはもみじの手 | 香 川 紀 香 |
| 落花手に取り微笑んだ車椅子 | 吉 川 美佐子 |
| 人もまたかくの如きか花吹雪 | 徳 田 進 |
| 桜見る平和な時のありがたさ | 松 井 哲 夫 |
| どの桜も縁 <small>ゆかり</small> の深い名をつけて | 大 古 加代子 |
| ケータイの充電済ませまわりみち | 中 植 勝 己 |
| 散りつつも迎えてくれたまわりみち | 久保由貴子(おゆき) |
| 青空をバックに桜見栄を切る | 小 山 俊 介 |
| 精いっぱい咲いて未練のない桜 | 楠山東石子(東石子) |
| 春来ればやっぱり花のまわりみち | 八 藤 秋 登 |
| またきたよはるのおとずれまわりみち | さかはら琴(こっちゃん) |

選者吟

妻の目の輝きを見たまわりみち

三 浦 宏